



この街が好きだから

武蔵野スケッチ物語

絵と文
大須賀一雄

94

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

境南町五丁目にて

私の知り合いに、97歳になる友人がいる。彼は健康に良いからと毎日7000歩も歩いているのだが、電話の声にも張りがあり、私はひそかに100歳を軽くクリアするのではないかと思っている。私も彼を見習って、毎日3000歩くらいは歩こうと一度は決意したが、長続きせず、わずか数日で元の状態に戻ってしまった。

このようなことは、相当強い決意がないと長続きしないと思っはいるのだが、体に良いことなので、近いうちに再挑戦したいと考えている。

私は、杖を使わなくとも歩くことはできるのだが、歩行中に時々2〜3分の休憩を取りながら、15〜16分歩くことが私にはちょうど良い。幸い、途中で喫茶店があるので、本を持って出掛け、コーヒーを飲みながら、時間をつぶすことができるのもありがたい。もし雨が降っても、家に歩行器があるので、それも活用しながら、挑戦したいと思っている。

大須賀一雄（おおすか・かずお） 水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『線』（旅もようスケッチ会）ほか。2022年まで、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。